まちの主役 MADE IN SHIMONOSEKI

綾羅木地区連合婦人会

下関で集まった遊休品を活用して寄付を募り、全国の被災地へ届ける活動を続けて９年。今回のまちの主役は、綾羅木地区連合婦人会を紹介します。

少しずつのできることが大きな力に

下関から被災地へ

綾羅木の住宅街の一角に、人が集まっている場所「ソレイユ」があります。20平方メートルほどの車庫にはアクセサリー、食器など１０００点以上が並べられ、雑貨屋のような雰囲気。お客さんは洋服を選んだり、美容の話をしたりして、にぎやかです。200円を寄付したお客さんは自分が選んだ品物を1点受け取ります。

ソレイユができたきっかけは、平成23年の東日本大震災。綾羅木地区連合婦人会でできることはないかと考え、震災の６日後、町内にチラシを配って遊休品を募りました。すぐに家がいっぱいになるほど物が集まったそうです。それをフリーマーケットで売ったところ、45万円もの売り上げに。一方で、売れ残った物もたくさんあり、捨てるのはもったいないと思っていたところ、会員の津田博子さんが車庫を貸してくれることになりました。品物は市民の方が持って来たり、引き取りに行ったりして集めています。

ソレイユの活動は来年で10年になります。これまで売上を宮城、岩手、福島、熊本、福岡といった被災地に寄付をしてきました。寄付した総額は400万円以上。被災したワカメ工場の再建費用や、被災地の婦人会が子どもたちのための活動を行う資金、福島の親子に下関で過ごしてもらうための保養プロジェクトの支援金に活用されています。

▲手作りの袋に下関のお土産を詰めて被災地に届けました。

まちかどボイス

今月のテーマ

自分の中で流行っていること！

◀会長の壇さん
「この場所があるからできています。これからもできる限り続けていきたいと思います」

▶店の中では、他の作業をすることも。この日はお客さんも一緒に、地域の幼稚園に贈る花飾りをきれいにしていました。

ソレイユのつながり

ソレイユのお客さんに話を伺いました。「活動に協力をしたいという思いもありますが、皆さんの気持ちが詰まった物を共有できることがうれしいです。ここでは心の底から笑うことができます。この空間に、皆さんと一緒にいることが幸せです」

会員の中村愛子さんは、「病気になり、思うように活動できないので辞めようと思いましたが、居てくれるだけでいいと言われました。今は自分のできることをしようと思い、毎週来ています。情報交換をしたり、新しい人に出会ったりすることが楽しいです。人と接すると病気のことを忘れることができ、だいぶ元気になりました」と話します。なじみのお客さんの顔が見えないと、会員が声をかけに行ったり、お客さんから差し入れをもらったりすることもあります。ソレイユを通じて、温かいつながりができています。

婦人会では、この活動以外に、通学する子どもたちの見守り、草取り、ごみ拾い、夏祭りの手伝いや小学校で昔遊びやミシン学習の補助ボランティアなど、地域に密着した活動をしています。

婦人会のモットーは「元気・笑顔・絆」。皆さんが、できる範囲のことを楽しみながらしています。

活動への問い合わせは、綾羅木地区連合婦人会会長壇圭子さん（☎090-9061-3061）まで。

編集後記

■電話で取材の依頼をして、実際に担当の方と初めて会うときはいつもとても緊張します。早く人見知りを克服したいです。（き）

■秋になると、全国から集まったタカやヒヨドリが関門海峡を渡ります。全国的にもあまり見られない光景が身近にある下関は素晴らしい街です。（ひ）

■一眼レフのカメラを使っていますが、スマホの方がいい写真を撮れることが多々あります。スマホのカメラが優秀なのか、私の腕が未熟なのか…。（わ）